

富岡地域づくり 協議会だより



第8号

平成28年12月22日

広報委員会

<http://www.town-tomioka.click/>

富岡地区文化祭が開催されました

11月19日(土)・20日(日)の両日、富岡まちづくりセンターにて富岡地区文化祭が開催されました。これは、地域住民すなわち富岡地区文化祭実行委員会(富岡地域づくり協議会・利用サークル等がこれに含まれています)の面々140名程が主体となって実施しています。今回で57回を数える伝統のある事業でもあります。

圧巻なのは、当まちづくりセンターで活動する文化サークルがこぞって参加し、作品展示や芸能音楽発表会を行っていることと、毎年2000名以上の参加者があるということです。

富岡地区にある小・中学校の児童・生徒の絵画・工作等の作品の展示もあり、地域住民からの写真、絵手紙、手工芸、日本画、菊花等々の作品も公開されます。

これらに触発され、次回は自分もと作品づくりに励まれる方もいるやに聞き、すばらしい機会だと思えます。

おっぺすとみおかのメンバーがお茶の馳走もしてくれます。ついでにはではないですが、茶のみ話に花がさき、団欒も提供してくれています。何やら縁台将棋様の光景が思い浮かびました。

これこそが、近所づきあいの原点なのではという実感をもちました。尚、健康づくり支援課により健康相談も行われました。

さて、子どもたちのために子ども向けイベントや模擬店等もしつつあります。小さな子どもでも参加しやすいような簡単なゲームです。家族揃って参加できるような工夫もなされているということです。

ポップコーンやわた菓子への興味も大きく、時間によっては列ができるほどです。

ポップコーンやわた菓子への興味も大きく、時間によっては列ができるほどです。

地域の皆様から献品された日用品・野菜のバザーも好評

で、飛ぶように売られていました。地域の企業や団体及び個人商店等から提供いただいた物も販売させていただきました。ご協力ありがとうございました。

今回は、ホールで一般発表会があり、秋草学園高等学校のダンス部がすばらしい創作ダンスを、そして、どじょうすくいやフラダンス等の特技をお持ちのグループがそれぞれ得意の演技や舞踏等を披露してくださいました。

これほどの規模の催しとなると、ハード面ばかりでなくソフト面への配慮や心配りも必要になります。細部に渡り細心の注意を払って実施していますが、何かお気づきの点がありましたらお申し出いただけますと幸甚です。



芸防音楽発表会の様子



男女混成のコラス



大正琴のなつかしい調べ



優美な日本舞踊



フラダンスで常夏気分

自治会・公民館利用サークル・小中学生の力作の展示



福祉専門の展示と参加者との交流



模擬店の様子



バザーでは富岡の地場野菜が出品



ポップコーンいかがですか



ロビーも大にぎわい



食べたいお菓子が釣れたかな

<編集後記>

人類が調理に火を使い始めたことで、社会的な結びつきが生まれやすくなったと英国の歴史学者が書いている。同じ時間にたき火を囲んで集団で食事をするので、そこが親交の場になったという。

そんな火の力をとりわけ感じる季節になった。木枯らし1号が吹いて、家族や友人と鍋をつつきたくなる時である。寄せ鍋、つみれ鍋、石狩鍋・・・。文字を見るだけで温くなる。

11月11日付けの天声人語の一節です。時期を得た文章かなと思ってぴんとくるものがありました。

日本にも「同じ釜の飯を食う」ということわざがあり、「寝食を共にする。一緒に生活して苦楽を分かち合った仲間であることのたとえ。」として使われています。これらは、ひとにとって、社会生活が大切であることを謳っているように思えます。

巷では、最近の核家族化及び生活の多様化等で個食・孤食が多くなっているという報道があります。親交・会話・談話・情報交換等々の場の設定のためにも意識して家族揃ってないしは仲間と鍋をつつく機会を多くもちたいものだと思います。

話はそれますが、この火から童謡の「たきび」が連想されました。落ち葉を焚く光景とそれに手をかざしてぐるり囲むひとの輪が情景として浮かんできます。今ではほとんど見られませんが、昔この時季に多く見られたものとして懐かしく思い出しました。